育成 モノづくり人材 Vol. 20

山口県立宇部工業高校

製鉄の原点「たたら」学ぶ

1920年（大正9）開校の山口県立宇部工業高校は、県内初の工業高校として多くの人材を産業界に送り続けている。宇部興産創業者の渡辺祐策氏が開校に尽力したことも広く知られている。

伊藤校長

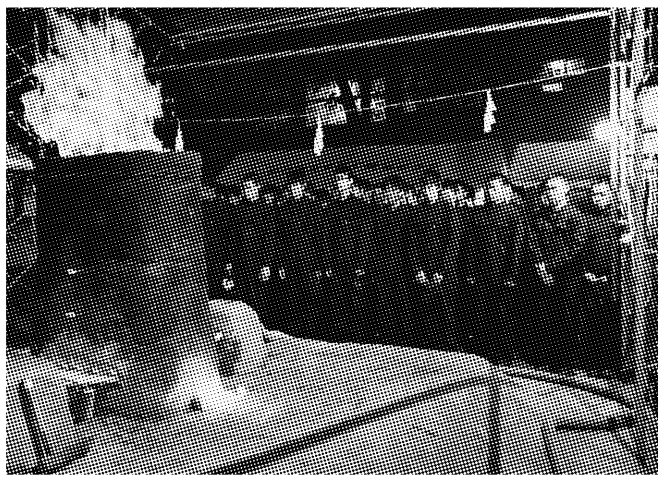
校訓が掲げられ、創造性に富む工業人材育成が日々進められている。

【DATA】▷校長＝伊藤健司氏▷所在地＝山口県宇部市▷学科構成＝機械科、電子機械科、電気科、化学工業科、定時制機械科▷総定員＝640人▷主要設備＝マシニングセンター、太陽光発電装置、バイオエタノール実験装置、バイオディーゼル燃料製造装置▷主な進路＝宇部興産、セントラル硝子、テルモ山口、デンソー、山口東京理科大学、広島工業大学など

校訓は「誠と熱」。伊藤健司校長は「熱く、誠の心でモノづくりに取り組む。そのための規律を守る」と、厳しさを持って教育に当たっている。校長室には渡辺翁が寄稿した。

全日制は機械、電子機械、電気、化学工業の4学科4クラスを持つ。ユニークな取り組みを行っているのが「モノづくりと環境スペシャリストの育成」を目指す化学工業科だ。

瀬戸内沿岸に大手化学メーカーが集積する山口県らしく、カリキュラムでは化学工業を取り扱い物質の特性や化学反応、環境改善技術を学ぶ。地域連携にも積極的に取り組んでおり、廃油を利用したバイオディーゼル燃料製造実証や、製造したミスト発生装置の公共施設への貸し出しなどさまざまな取り組みが行われている。これらが評価され、全国の工業高校では珍しい文部科学省のESD（持続可能な開発のための教育）教育課程研究指定校に2014年度から2年間選ばれた。


古代たたら製鉄復元操業を始めて３年目を迎えた

さらに古来の製鉄技法「たたら」復興に取り組む。全国の工業高校で唯一13年度から行っており、15年も11月の文化祭時に一昼夜かけて「古代たたら製鉄復元操業」を行った。

日本に2人しかいないたたら技法の国選定保存技術保持者の木原明氏が同校卒業生だった縁で実現した。伊藤校長は「学生数の減少など課題はあるが、本校ではモノづくりの原点を学ぶことができ、就職にも役立つ」と実践教育に自信を持つ。

（北九州支局長・大神浩二）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社